

クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号に関する支援活動に従事した皆さまへ

クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号における支援活動については、3月1日、すべての乗客・乗員の下船が完了し、オペレーションに大きな一区切りがつけました。2月3日のクルーズ船の横浜港入港後、支援活動に当たっていただいた関係者の皆さまに対して、心より御礼を申し上げます。

クルーズ船の内外では、連日、検疫、感染防止策の徹底、発症者の診察、健康確認、PCR検査の検体採取、医療機関等への搬送、医薬品等の物資の提供、Wi-Fi等生活環境の整備、下船した方の宿泊施設での受入れに至るまで、クルーズ船の船長やクルーの方々を含め、多くの機関、団体、企業、専門家等の参画の下、業務が展開されたと聞いています。現場では、さまざまな困難があったと思います。それぞれの関係者の皆さまが、状況に応じて適切な対応を考え抜き、協力を重ねながら一つひとつの問題を解決することで、ここまでの状況に至ることができました。

皆さまには、感染のリスクがある中、強い精神的なストレスに晒されながら、使命感をもって支援活動にあたっていただきました。ご家族、ご友人、職場の同僚を始め、周りの方々にも大きなご心配をおかけしたことと思います。新型コロナウイルス感染症の国内での感染拡大を食い止めたい、そして船内で不自由な生活を過ごされた乗客・乗員の方々に健康に日常生活へ戻ってほしいという皆さまの強い気持ちと、献身的な努力なくして、このクルーズ船での検疫は実行し得ませんでした。重ねて、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

すべての乗客・乗員の下船が完了したことで、クルーズ船における新型コロナウイルス感染症対策は大きな一区切りを迎えました。しかし感染症との戦いはまだ終わっていません。皆さまは、クルーズ船を離れ、既に元の持ち場に帰っていただいていることと思いますが、それぞれの立場で新型コロナウイルス感染症対策及び感染拡大防止に引き続きご支援、ご協力いただけますようお願い申し上げます。末筆ながら、今後の皆さまのさらなるご活躍を深くお祈り申し上げます。

令和2年3月18日

厚生労働大臣

加藤勝信